

模擬面接に臨む金沢学院短期大学の学生
= 4号館3階



金沢学院短期大学の就職模擬面接は一月十六日、4号館で行われ、来年春の就職を目指して今春から本格的な就職活動を開始する一年生が緊張した面持ちで臨みました。

企業の採用担当者を招いて「面接官」を務めてもらい、学生が面談の雰囲気を実験し、アドバイスを受けることで就職意識を高める狙いで毎年開いています。

短大で緊張の模擬面接

面接官は学生に「社会人になるとは?」「アルバイトの経験はあるか?」「短期大学に進学した理由は?」などと質問し、話し方や応答の内容について助言しました。

面接官からは面接の狙いについて、採用担当者はいろいろな質問を通じて、皆さんの人柄や考え方を酌み取る。好きな言葉は何かなど定番の質問にはあらかじめ答えを用意しておいた方が慌てない、などとアドバイスしました。

まず自分の適性を知る

内定者が後輩に助言



就職活動を振り返る4年生の内定者 = 4号館講堂

採用担当者に売り込みを

金沢学院大学の就職教育講座「内定者に聴く」は一月十九日、4号館講堂で開かれ、四年生の就職内定者七人が、後輩学生に、就職活動のポイントを助言しました。講師の学生は、事前の自己分析や採用担当者に対する積極的な売り込みを説きました。

講師を務めたのは、池田智子(日本文学科、アイ・オー・データ機器)、舟田めぐみ(国際文化学科、北國銀行)、竹田雄一(経営情報学科、小松鋼機)、田中貴之(ネットワークビジネス学科、NTTデータカスタマ

就職活動開始へ準備着々



講演する奥田さん

サービス)、永田淳美(情報デザイン学科、山越)、大島泰之(同、長野・オノウエ印刷)、中川さやか(文化財学科、北銀ビジネスサービス)の七人の皆さん。

七人はそれぞれ、面接は表情豊かに、わざとらしいくらいに積極的に自分を売り込む。不採用になっても落ち込まない。まず自己分析で自分の適性を見極める会社に入らなければなら面接開始の心構えを持つ。志望する会社について詳しく調べる。などと話しました。

講師の学生は「初めは全部を例に、就職における理想と現実のギャップを指摘しました。また、働くことと働き続けることの違いについて、働き続けるには、周囲の協力はもちろん、職場の中で自分が必要とされているかどうかカギになる」と話しました。



中町助教授が寄贈した作品

金沢学院大学美術文化学部の中町力助教授は一月十六日、学校法人金沢学院に日本画「橋・ニューヨーク」(P10号)を寄贈しました。

二〇〇五年に描いた作品で、モノトーンのクイーンズブリッジが、大都会の緊張感とクールさを伝えています。

中町助教授が自作を寄贈

センター試験無事終了金沢学院大学など石川県内七大学が会場となっている平成十九年度大学入試センター試験は一月二十日、二十一日行われ、本学会場では全科目とも無事終了しました。機器のトラブルが心配された英語のリスニング試験は、本学では四百十五人が受けましたが、今年も再開テストの希望が出るなどの混乱は一件もなく終了しました。

女子大卒業生が講演
金沢学院大学の就職教育講座「自分の未来を創造する」は一月十二日、4号館講堂で開かれ、金沢女子大学の卒業生で石川近代文学館の学芸員を務める奥田知穂さんが講演しました。

奥田さんは、教員志望から方向転換した自らの経験を例に、就職における理想と現実のギャップを指摘しました。また、働くことと働き続けることの違いについて、働き続けるには、周囲の協力はもちろん、職場の中で自分が必要とされているかどうかカギになる」と話しました。



吹奏楽部が定期演奏会

吹奏楽部が定期演奏会
金沢学院大学・金沢学院短期大学吹奏楽部の第十二回定期演奏会は一月二十一日、金沢市文化ホールで行われ、部員や卒業生が日ごろの練習の成果を披露して、訪れた人々を魅了しました。写真左。

演奏会は二部構成で、第一部では「一部では北歐の神話をイメージした曲など、第二部では「第二部ではミツキー・マウス・マーチや七年代のデイス・コロムビアを披露しました。」

発行・広報室